

平和の折り鶴

あす広島原爆忌

願いをつなぐ

「結婚や出産、新たな希望や喜びの場面で、平和あってこそものだと感じて」。

広島市で6日に開かれる「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」を前に、今年も広島市の平和記念公園にある原爆の子の像には老若男女、国籍を問わず多くの人たちが折り鶴を

四国中央の紙製品会社

手向けている。四国中央市曾根町の今村紙工は、広島市から譲り受けた鶴を再生紙にし、祝儀袋とポチ袋を製作。心を込めて折られた一羽一羽を、相手を思って贈る包みに変え、平和への願いを共有したいと願っている。



①原爆の子の像にさげられた折り鶴を利用して今村紙工が作った祝儀袋とポチ袋。7月25日、四国中央市中曾根町②平和記念公園の「原爆の子の像」に折り鶴をさげ、平和を願う子どもたち。3日午前、広島市

祝儀・ポチ袋に再生「子どもの思い育みたい」

広島市平和推進課に集。折り鶴に託されたよると、像には年間約1千万羽、重さ約10トの折り鶴が供えられる。焼却していた折り鶴を展示するため、市は2002年度分から保管していたが、展示以外の活用方針を募りて市民から意見を募

素材でポロシャツやTシャツを作ったり、海外で被爆の惨状を語る際に使ったりしている。今村紙工は約1年半前に取り組みを開始。今村康光専務取締役(47)が広島空港で折り鶴を使ったモニユメン

トを目にしたのがきっかけだった。「同じ紙であり、産地として自分たちも何かしたい」。インターネットで取り組みを知り、申請した。広島市からトラック

再生紙を作った。固形物や異物が混じらないよう、シールや束ねたひもなどを一つ一つ取り除いた。今村専務は「名前が書いてあるのを見て、これは大事にしないか」とあらためて思いました」と振り返る。

売上げの一部は、広島市を通じて平和推進事業活動に役立てている。商品知名度は低い。商品を知ってもらうのが、平和を思う気持ち。ちがもったものを再生している。消費者に伝えていきたいと考えている。

雨が包む中、園児50人で折った千羽を贈った延崎保育園(呉市阿賀南4丁目)の保育士大上寿美さん(25)は、「毎年、優しい気持ちで折ることが大事だよ、と園児に話している。いつもたくさん鶴はつむたくなのかと思う

3日、平和公園内を

ていた。すてきな取り組みですね」と話していた。「ゆくゆくは折り鶴で、子どもにも使ってもらえるものを生み出し、小さなころから平和への思いを育んでもらいたい」と今村専務。紙のまちから次代の平和をばぐむ取り組みを続けている。(中田佐知子)